

理事長ご挨拶



理事長・院長 佐々木 庸

主たる資格等

【医学部系資格】

日本脳卒中の外科学会技術指導医
日本脳卒中学会指導医
日本脳神経外科学会専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医
日本ステミュレーション学会 理事
日本ボツリヌス治療学会 理事

【経営学部系資格】

経営学修士
(神戸大学経営学部大学院MBA)

2011年開設火入れ以来、本年7月には10周年を迎えることになります。コロナ禍ではありますがかような節目を業務に邁進できていることに大きな意義を感じつつ、開設火入れ以来藍の都にご信頼を頂いた患者様、患者様ご家族、近隣の医療関係者の皆様、救急隊の皆様には藍の都職員一同を代表し心より御礼申し上げます。

火入れ以来、手に届く範囲でできるだけきめ細かなハートある高度先進医療をご提供して行くことを最大の命題として職員一同邁進してまいりました。脳卒中医療にコロナ感染拡散防止という新たな命題を受け、職員一丸となってハード面(SCUや救急室の陰圧室化や西待合室増設など)だけでなくソフト面もアップグレードしてきました。

大阪東部地区の住民の皆様にはハートある脳卒中最新医療をご提供することだけに心を一つにして、藍の都チームは一步一步愚直に前に足を進めていきます。どうぞよろしくご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

厚生労働省公式ホームページ内
「医療施設の経営改善に関する調査研究(平成29年度)」
<https://goo.gl/7z7Zzc>



患者様ならびに
患者様ご家族の皆様へ

当院では医師やスタッフへの謝礼金のお受け取りは固くお断りしております。一方で当法人への寄付金については、理事長総務室を窓口にお受け入れをさせて頂いております。当法人のハートある医療提供への取り組みにご賛同ご支援いただけましたら幸いです。

社会医療法人ささき会 藍の都脳神経外科病院 院長
お問い合わせ先 理事長総務室 06-6965-1805(直通)

〈診療のご案内〉

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00 (受付 8:45~11:30)	○	○	○	○	○	○	
14:00~17:00 (受付 13:30~16:30)	○	○	○	○	○		

■診療日：月～土曜日(土は午前中診療)

■休診日：日曜・祝日・年末年始(12/30~1/3)

◎救急外来は24時間診療です。※診療科により異なる場合があります。

〈面会のご案内〉平日 14:00~20:00 / 土日祝 11:00~20:00

ICU・SCU 14:00~15:00 と 19:00~20:00



社会医療法人 ささき会

藍の都脳神経外科病院

AINOMIYAKO NEUROSURGERY HOSPITAL

大阪市鶴見区放出東2丁目21番16号

Tel.06-6965-1800 FAX.06-6965-1600

URL: <http://www.ainomiyako.net>

・日本脳神経外科学会専門医研修プログラム連携施設(基幹病院：北野病院)

・日本脳卒中学会認定研修教育施設



相互連絡する駅
連絡する路線名

JR放出駅まで
●新大阪駅より電車で15分
●久宝寺駅より電車で15分 ●京橋駅より電車で4分

藍の都 いるか通信

地域の方々と共に育む、
当院がお届けする健康だより

Vol.8
Take Free

AINOMIYAKO DOLPHIN NEWSLETTER

INDEX

- P.1 ・コロナ時代の病気予防
- P.2 ・検査部奮闘記 PCR検査・抗原検査について
- P.3 ・杭州・佐佐木中心にVIP専用病棟を開設しました
- P.4 ・藍の都の宝 勤務の長いスタッフコラム
- P.5 ・大阪梅田に「社会医療法人 ささき会 メディカルチェックスタジオ 大阪梅田クリニック」開院！
- P.6 ・病診連携でお世話になっているDrのご紹介
- P.7~8 ・ワクチン接種、新設西待合室で開始しています
- P.9 ・コロナ禍においても社会医療法人認定規約
年間時間外救急車搬送件数750件をクリアしました！
- P.10 熱とコロナとQQ(救急)と
- P.11 ・理事長ご挨拶



コイル塞栓術
矢野副部長執刀 小林副部長アシスト



栗林脊椎脊髄センター長執刀
佐々木院長アシスト



脳神経内視鏡手術
森田副部長執刀
山下救急部長アシスト



コロナ時代の 病気の予防



脳神経内科 医長
清原 佳奈子
(勤続5年目)

出身大学 京都府立医科大学
日本神経学会 認定神経内科専門医

新型コロナウイルスが世界で確認されてから、1年以上が経ちました。感染リスクを恐れて外出が減り、残念ながら弱ってしまった方も沢山おられます。普段の歩行と、病気の予防効果についての報告があります。

1日あたりの「歩数」と「予防(改善)できる病気・病態」



2000歩	寝たきり
4000歩	うつ病
5000歩	要支援・要介護、認知症、心疾患、脳卒中
7000歩	動脈硬化、骨粗鬆症、骨折
7500歩	筋減少症、体力の低下(特に75歳以上の下肢筋力や歩行速度)
8000歩	高血圧症、糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム(75歳以上の場合)
10000歩	メタボリックシンドローム(75歳未満の場合)
12000歩	肥満

(東京都健康長寿医療センター研究所 青柳幸利氏による)

この記事を見て、意外に沢山歩かないといけないことに、びっくりされた方もいらっしゃるかもしれません。筋肉、体力を維持しようと思えば、7500歩が必要ということです。でも、「そんなに歩けないよ」と思って、あきらめないでください。次のような発表もあります。



高齢女性において、約4,400歩という少ない歩数でも約2,700歩に比べ、死亡率が41%低いことが示された。

(JAMA Internal Medicine誌オンライン版2019年5月29日号に掲載)

少しでも多く、できれば、毎日最低4500歩を目指してみてもいいでしょうか。例えばちょっと遠くのスーパーや、公園に行ってみてもいいかもしれません。もちろん、人混みを避けて、マスクをつけて、感染予防をして、出かける必要はありますが、散歩したり、感染対策を心がけているデイサービスを利用したりすることも大事かと思います。

皆様、頑張りましょうね!



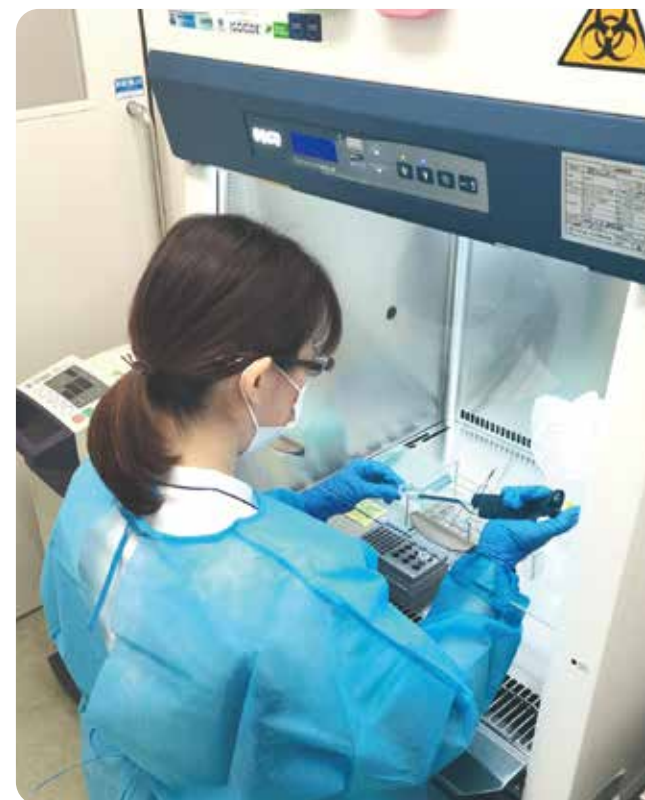
検査部奮闘記

PCR検査・抗原検査について

昨年から世界中で感染が拡大した、新型コロナウイルス。そこで必ず出てくる『PCR検査』という言葉。耳にしない日は無いくらい、お馴染みとなっていました。医療従事者の間では比較的知られた検査であり、犯罪捜査や親子関係の鑑定などでも使われる検査ですが、一般的にはコロナで初めて知ったという方が、大半ではないでしょうか?

今回はこのPCR検査と、その検査をしている私たち臨床検査技師という仕事について少し紹介させていただきます。

臨床検査技師という職名は、残念ながらあまり知名度があるとはいえません。でも皆さんが病院に行って、血液や尿を調べたり、心電図やエコーをとったりしたことはありませんか? そういった検査を私たち臨床検査技師がおこなっています。



では本題のPCR検査ですが、『PCR』は『ポリメラーゼ連鎖反応』という言葉の略称で、現在ウイルスが体内に存在しているのか(感染しているのか)を、調べることができる検査です。他にも抗原検査や、抗体検査などがあります。現在感染しているのかを調べるのが、PCR検査と抗原検査で、過去に感染して抗体ができていたのかを調べるのが抗体検査です。

このうち当院では、PCR検査と抗原検査をおこなっています。鼻などから粘液を採取し、安全キャビネットと呼ばれる装置の中で準備をします。そして専用の機械にかけます。アイゴーグル・マスク・エプロン・手袋を装着して、慎重に検査をします。

まだまだ未知のウイルスで、感染も収まる気配の無い中、患者さんに安心して病院に来ていただけるように、院長を中心に職員一丸となって、乗り越えていこうと奮闘しています。その中で私たち検査技師も、早く正確に検査結果をだせるように、試行錯誤をしながら取り組んでいます。



臨床検査部 右から松本満美(勤続3年目)、玉田知美(勤続3年目)、
沢崎詩乃(勤続4年目)、中村綾佳(勤続2年目)

杭州・佐佐木中心に VIP専用病棟を開設しました



2021年1月より、中国杭州・佐佐木脳康復中心では、VIP病棟を開設しました。

2019年7月に開業した佐佐木中心は、当法人の国際貢献活動として、中国の“浙江和康医療集団”と合作運営を行なっている病棟です。

今回新たに開設されたVIP病棟の特徴としては、①時間単位でのリハビリ提供、②管理栄養士による食事、③病棟単位での看護助手の導入を特徴としています。

現在の中国の一般的な病院では、こういった医療や看護・リハビリテーション提供体制ではないため、日本で採用されているシステムを中国に合わせて導入しています。導入する際に特に注意した点は、日本のシステムをそのまま導入することは難しく、現地の医療従事者にすら理解してもらうことができない点もあります。また、こういった運営体制は、もちろん佐佐木中心のスタッフにも経験がありませんでした。そのため、VIP病棟開設前から、しっかりとトレーニングを積み、

現地スタッフと話し合いながらどのように導入していくのかを決定していきました。

また、オープンに伴った改修工事も行われました。バリアフリートイレの設置、新規にデイルームが設置されました。この部分においても、ユニバーサルデザインを心がけて、どんな人でも使いやすいように設置されています。実際に導入するには、現地の工事関係者と何度も話し合いを重ね、なかなかスムーズに話が進まない難しさはありましたが、たくさんの協力があり、現在は素敵な病棟になっています。

中国で、ご知人やご家族の方が脳卒中リハビリテーションでお困りの際は、中国浙江省杭州市の九和医院佐佐木脳康復中心(佐々木脳卒中リハビリテーションセンター)へご相談頂けますと幸いです。また、藍の都脳神経外科ホームページにも、私たち杭州佐佐木脳康復中心のページがありますので、ぜひご覧ください。

佐佐木脳康復中心 紹介サイト



日本語
藍の都特設サイト



中国語
Wechatアプリをお持ちの方



杭州佐々木脳卒中リハビリテーションセンター
センター長
西岡 将(勤続10年目)



藍の都の宝 勤務の長いスタッフコラム

看護助手として、勤続9年目を迎えて 谷口 智恵子

藍の都脳神経外科病院に勤務させて頂くようになってから早いもので9年の歳月が経ちました。(定年の60歳はとうに越えました!笑)

自宅近くにこの病院が開業されたことを知り、病院での看護助手の仕事経験がありましたので、すぐに面接を受けて採用して頂きました。

脳神経外科での仕事は初めてだったので不安でしたが、看護師さん、看護助手さんが一丸となり協力しながら頑張っています。

私たちの仕事は、患者様の食事や入浴介助・オムツ交換などの仕事です。

患者様が安心安楽な生活が出来るように援助させて頂いています。

手術された患者様がリハビリをされて元気になられ、退院されていく姿を見る時が本当にこの仕事をしていてよかったと思える瞬間です。

この仕事はやりがいがあるのでこの病院で皆様と一緒に元気に働いていることをうれしく思っています。

昨年から世界中で新型コロナウイルスの感染が拡大して、亡くられる人が多数出ています。病院での仕事は不安や大変なこともあります。この病院は感染対策をしっかりされています。私自身も自覚を持って感染対策をすることで、感染しない・感染させないように気を付けています。

一日も早くコロナが収束して、今までのような日常生活に戻ることを願っています。



藍の都脳神経外科病院 看護部 看護助手
谷口 智恵子(勤続9年目)

訪問介護職員として、勤続10年目を迎えて 荒木 美和子

2011年の立ち上げから今年の7月で10年。この仕事に携わって10年経ってしまったんだなあと感慨深く思います。

あっという間の10年でしたが、まわりのたくさんの人達に助けられてなんとかここまで来ることができました。

最初は、藍の都脳神経外科病院で看護助手として、3年前からは、彩りの都サービス付高齢者住宅で介護職員として働かせて頂いています。

昨年からのコロナ禍の中、入居者様はご家族と面会が出来ず、さびしい、又、不安な思いをされています。その思いを少しでも和らげる事ができるよう、入居者様に寄り添った介護ができるよう、これからも頑張っていきたいと思っています。



藍の都ヘルパーステーション
訪問介護職員
荒木 美和子(勤続10年目)



メディカルチェックスタジオ
大阪梅田クリニック

院長 鳴海 治

- ・京都大学医学博士
- ・日本脳神経外科学会専門医・指導医
- ・日本脳卒中学会専門医・指導医
- ・脳卒中の外科技術指導医
- ・日本脳神経血管内治療専門医

社会医療法人 ささき会 MRI・CT 画像検査
メディカルチェックスタジオ
大阪梅田クリニック

TEL 06-7777-1008

〒530-0001 大阪府大阪市北区

梅田1丁目12-6 E-ma 1階



アクセス
◎各線「梅田駅」、「大阪梅田駅」、
JR「大阪駅」、JR「北新地駅」、
谷町線「東梅田駅」、
四つ橋線「西梅田駅」⇒徒歩5分

スマート脳ドック 診療時間

月曜日～金曜日	9:00～18:00
土曜日・日曜日	10:00～18:00
祝日	休診

脳神経外科外来 診療時間

月曜日～金曜日	9:00～13:00 14:00～18:00
土・日・祝日	休診



院長のご挨拶

はじめまして。脳神経外科医の鳴海治と申します。
今まで兵庫県立尼崎総合医療センターで脳卒中の急性期
治療当直業務や手術、再発予防のための外来診療を担当
させていただきました。

この度、縁あって梅田E-ma1階でメディカルチェック
スタジオ大阪梅田クリニック(MCS大阪梅田クリニック)の
院長として勤務することになりました。MCS大阪梅田
クリニックはスマート脳ドックを提供するクリニックです。

スマート脳ドックの特徴は

- ①誰もが気軽に受診できる検査料金(17,500円(税別))
 - ②忙しい方に最適な、来院からお帰りまで30分以内。
 - ③専門医2名によるダブルチェック体制
- の3つにあります。

予約はインターネット経由で行い、問診も事前にWEB
で入力していただくことで、患者様のスムーズな検査を
実現します。

また結果は1週間以内にメールでご案内し、スマート
ドックのサイト上のマイページでご自身のMRI、CT画像
とともにご覧いただけます。

2021年4月1日に開院し19日から脳ドックの受け
入れを本格開始し脳の病気を未病の段階で早期発見
してまいります。藍の都脳神経外科病院とも連携して参る
予定です。脳ドックの他にも所見のあった方の外来や
専門外来として頭痛外来なども行う予定です。

梅田という場所に開業し、改めて初心に戻ったつもり
で心機一転診療に邁進しますので、どうぞよろしく
お願いします。



こんにちは。これまで8年間藍の都脳神経外科病院
で勤務していました脳神経外科医の岩田亮一です。
脳卒中の急性期治療として当直業務や手術、再発予
防のための外来診療を担当させていただきました。

この度、藍の都脳神経外科病院で培った経験を軸
にして、城東区コーナン関目の近くで独立開業する
ことになりました。脳の病気の診断にはMRI撮像が
必須ですので、当院ではGE社の最新のMRIを導入
しています。常勤の放射線技師も常駐していますので、
安心して検査を受けることができます。2020年12月
1日に開院し、脳の病気を早期発見し、連携病院である
藍の都脳神経外科病院で迅速かつ適切に治療が
行われています。わたし自身も脳血管内治療指導医
として、カテーテル手術なども継続しています。

脳の病気には、脳梗塞や脳出血、くも膜下出血など
命に係わる病気もありますが、これらは早期発見・早期
治療だけでなく、予防が重要です。高血圧、糖尿病、
高脂血症だけでなく、睡眠時無呼吸症候群や禁煙外来
など動脈硬化外来を行っています。

頭痛には、MRIで異常がなくても片頭痛など生活
支障度の高い疾患もあります。片頭痛は遺伝や体質で
治らないといわれてしまうこともあります。適切な
生活指導と投薬加療により治療することができます
ので、気軽にご相談ください。またこれまで物忘れ外来
を担当させていただいておりました。認知症を引き
起こす疾患も多岐にわたりますが、脳外科医にこそ
治せる認知症(慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症、てん
かんなど)があります。

独立開業しましたが、今後はより一層病診連携
を強固にして診療しますので、どうぞよろしく
お願いします。



(左)佐々木院長
(右)岩田院長
手術風景



いわた脳神経外科クリニック 院長 岩田 亮一



脳神経外科 脳神経内科 外科
いわた脳神経外科クリニック
IWATA Neurosurgery Clinic

TEL 06-6935-2335

〒536-0007 大阪市城東区成育2丁目13番27号

クリニックステーション野江 1-B

アクセス
◎京阪本線
『野江』駅・東側出入口から徒歩約4分
『関目』駅から徒歩約9分
◎JRおおさか東線
『JR野江』駅・東口から徒歩約7分

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	●	●	●	●	●	●
13:00～16:00	★	★	★	◇	/	/
16:00～19:00	●	●	●	◇	/	/

★…MRI検査 ◇…脊椎・しびれ外来

休診日：金曜午後・土曜午後・日曜・祝日

コロナ感染 拡散防止 対策特集 コラム

ワクチン接種治療班からのお知らせ

ワクチン接種、 新設西待合室で開始しています

コロナ感染拡散の切り札とされるワクチン接種。藍の都ではスタッフの不安も大きいため3月30日佐々木院長、奥谷次長、土海看護師長、石橋副リハ主任、豊田副主任の計5名に先行実施。接種後元気であることをしっかり可視化してスタッフの不安を一掃し、3月31日から藍の都スタッフへ接種実施しました。すでに2回目も終了し、スタッフから患者様へ感染クラスターを発生させる可能性は大きく低減化できたと いえます。

これを受け、大阪保健所からの要請を受け4月20日から当院以外の医療従事者(大阪全域)の皆様への接種実施を開始しています。

現在当院では、かような当院以外の医療従事者の皆様への接種貢献、脳卒中患者さんであれば発熱があっても受け入れる擬似症例救急対応貢献、アフターコロナ患者さん(感染後にコロナが消失した状態)へのリハビリ受け入れ貢献、以上3つの貢献を継続することで大阪東部地区の住民の皆様様の健康を全力でお守りしていく所存です。

当院ではさらに当院かかりつけの患者様へのワクチン接種実施は要請があれば実施する意向を大阪保健所には表明していますので、そういったニーズがある場合はできるだけ積極的に接種実施貢献をしていきたいと考えています。

患者様 ワクチン接種の流れ



西待合室専用入口



受付



ワクチン接種

15分待機



西待合室
専用出口

専用出口から
お帰り頂きます



アナフィラキシー対応セット
を完備しています

ワクチン接種治療班メンバー in 西待合室



右から 佐々木院長(創業10年目) 土海看護師長(勤続10年目)
矢野薬剤科長(勤続10年目) 利川副看護師長(勤続10年目)

佐々木院長のワクチン接種風景



佐々木院長によるワクチン接種風景



北田医院北田院長先生へ
実施させて頂きました

ワクチン接種風景



山平浩世循環器部長(勤続7年目)によるワクチン接種



コロナ禍においても

社会医療法人認定規約 年間時間外救急車搬送件数 750件をクリアしました！

当院は2017年(開設6年目)に公益性の高い社会医療法人を認可いただきました。この社会医療法人の認可案件として、年間時間外救急車搬送件数750件があり、今年度もクリアすることができました。

山下晋救急部長の陣頭指揮のもと、2階SCU&急性期看護チームから構成されるERナースチームを基軸として、放射線部、医事課が献身的にサポートし、SCU陰圧ルーム、救急ERエリア、脳血管内手術室エリアで導入している陰圧化機能が功を奏し、発熱があるような脳卒中救急患者様(全国的に救急受け入れを拒否されるケースが相次いでいます)の受け入れもスムーズに実施できています。

看護師の感染予防対策を見直し強化したことで、脳外科疾患の患者様を、発熱の有無に関係なく受け入れの継続ができています。

その結果、大阪東部地区を中心に積極的な受け入れを行い、年間時間外救急件数750件達成に繋がったと思います。これにより、社会医療法人として地域貢献できたことは私達の誇りでもあります。

今後もチーム一丸となり、患者様ファーストで受け入れを継続して行きます。

当院では、徹底された感染防止策が功を奏し、コロナ禍の中でも院内スタッフに感染者を出すことなく、24時間365日救急患者様を受け入れることができています。

放射線部としては、患者様毎のアルコール消毒の徹底や陰圧設備導入などを行いながら、病院の縁の下での力持的存在として迅速かつ正確な画像診断ができるように日々研鑽しています。

社会医療法人の要件である救急車の受入の基準をなんとかクリアできたことにホッとしております。

例年と違い、2020年度当初、1回目の緊急事態宣言が始まり、新型コロナウイルスが救急車搬送件数に大きな影響を与えました。日常生活が大きく変わり、皆が外出などを控えた結果、救急車搬送件数がこれ程減少するとは思っていませんでした。

当院においては脳神経外科を主とした救急受入をしておりますが、脳卒中と発熱を併発した症例においても山下救急部長を中心に受入を続けた結果、社会医療法人認定要件をクリアできました。今後も地域医療の為にチームの一員として貢献していきます。



山下晋救急部長とER看護チーム

看護部
主任
山本 希
(勤続10年目)



放射線部
副主任
立川 慎也
(勤続5年目)



医事課
課長
桑原 史成
(勤続4年目)



熱とコロナと QQ(救急)と

熱のある患者様すべてがコロナ感染症とは限らず、一方で脳卒中の患者様にコロナ感染はないと言い切れない中で、我々の模索は始まった。

外国で新規のウイルス性肺炎が猛威を振るっているとの情報から程なくして、国内でも感染者が急拡大し、有名人の方がお亡くなりになるなど、そのウイルスは我々の身近に迫っていた。「これは何?」の疑問符(Query)とともに、「どうしたらいいの? 発熱のある脳卒中患者様の受け入れをどうするの? このウイルスから入院患者様をどう守るの?」といった質問(Question)が救急室にも巻き起こり、救急がQQ(Query & Question)に襲われた。

「コロナから逃げ回るのではなく、コロナを追い込んでいこう。発熱があっても脳卒中の患者様は受け入れていこう。」との院長の英断にて、当院の進むべき道は決まった。「これまで通りに脳卒中診療を継続する。発熱などコロナの疑われる患者様も差別なく受け入れていく。しかしながら、徹底したゾーニングと迅速な検査体制で、コロナを封じ込めていく。我々の入院患者様と、その治療にあたるすべての職員を、コロナから守る。」



救急部長 山下 晋 (勤続3年目)

院長は迅速に、ER、CT室、脳血管内手術室、SCUの四部署:カルテット(Quartet)に陰圧設備を導入して発熱患者のゾーニングをするとともに、医事課、ER看護師、放射線科技師、検査科技師、医師の5部門:クインテット(Quintet)に感染防御の習熟徹底を行った。この物的カルテットと人的クインテットの導入は、救急に巻き起こっていた不協和音を一掃した。QQ(Quartet & Quintet)がQQ(Query & Question)を駆逐した。

このコロナ禍の激動の一年間で脳卒中診療の質(Quality)を維持しつつ、目標件数(Quantity)をクリアできたことは、院長の英断と全職員の一致団結した力によると思う。我々の入院患者様と、その治療にあたるすべての職員を、コロナから守るとの強い意志は、時に誤解を招くこともあったが、これを甘んじて受け入れても、余りある成果:QQ(Quality & Quantity)が得られた。一職員として、我々の病院とこの病院を構成するすべての職員を誇らしく思う。